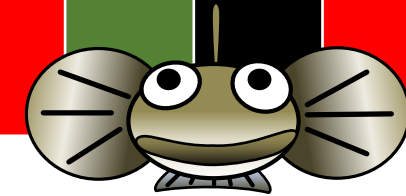


第4回



# 江戸前勉強会2022

• はじめに

「第3回の振り返りと、参加の皆様について」

(古川恵太)

2022年12月23日 19:00 - 20:30

**まもなく始まります。**

• 話題提供

東京湾へのアクセス (芝原達也さん 窓PT長)

コメンテーター (川辺みどりさん 東京海洋大)

• 意見交換

• おわりに



Youtube  
東京湾再生  
ハゼ博士



Webサイト  
coastcard.jp

# 江戸前勉強会2022



はじまりました！

**共催(予定を含む):**

東京湾再生官民連携フォーラム(モニタリングPT、窓PT、江戸前PT、生き物の生息場づくりPT他)

東京湾の環境をよくするために行動する会、

東京海洋大学江戸前ESD協議会、

東邦大学東京湾生態系研究センター、

ベルmontフォーラムCOAST Cardプロジェクト

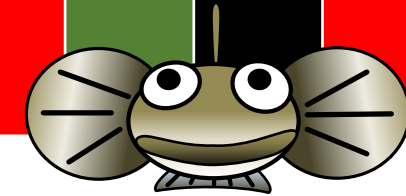
**協力:**

東京湾再生推進会議モニタリング分科会

ご参加のみなさまへ

- Zoomでの開催に並行して、YouTubeでの公開をいたします
- 勉強会の内容を録画し、後日公開させていただきます
- ご発表、ご発言については、個人の立場でお願いします(所属機関の見解といたしません)
- 本勉強会の成果を他で引用する場合には、発表者が特定されない形としてください(チャタムハウス・ルール)
- 楽しく、未来の東京湾のために議論いたしましょう
- 発言の時以外はミュートでお願いします。

第4回



# 江戸前勉強会2022

- はじめに

「第3回の振り返りと、参加の皆様について」

(古川恵太)

- 話題提供

東京湾へのアクセス (芝原達也さん 窓PT長)

コメンテーター (川辺みどりさん 東京海洋大)

- 意見交換

- おわりに

# 江戸前勉強会2022 ねらい

- 東京湾再生のための行動計画（第3期）に向けた期待
- みんなが協働し東京湾再生を盛り上げていくためにはどうしたら良いのか

第1回：計画  
第4回：アクセス

## めざすべき東京湾の姿を描こう

ヘドロのない海を目指そう  
海辺へのアクセスを確保しよう

第2回：モニタリング  
第3回：生息場づくり

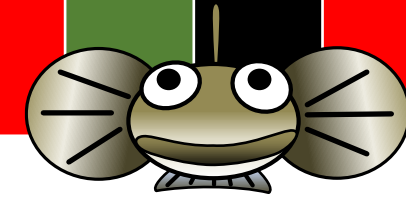
## 生物データの一元化・ 体系的な取得をしよう

生き物一斉調査・シンポの実施  
(うなぎ調査)

第5回：環境評価  
第6回：これから

## 新たな課題に対する対話の場をつくろう

「海のイドバタ会議」を実施しよう  
継続的に話していこう



## 江戸前勉強会2022(12/9)のふいかえり

- 生き物生息場づくり: 基本的な考え方と進め方
- 水産・漁業の視点: 漁業生産の変化と環境を見る視点
- 生物モニタリングについて: ベントスとネクトンの生物種確認調査



Webサイト  
coastcard.jp

## 勉強会の目標

- 目標を定め行動につなげる
  - 大きな再生目標(ビジョン)の再確認 → 行動の具体化
  - 行動する主体となる、幅広い関係者(ステークホルダー)のネットワークの強化

# 江戸前勉強会2022(12/9)のふいかえい

## ・ 生き物生息場つくり: 基本的な考え方と進め方

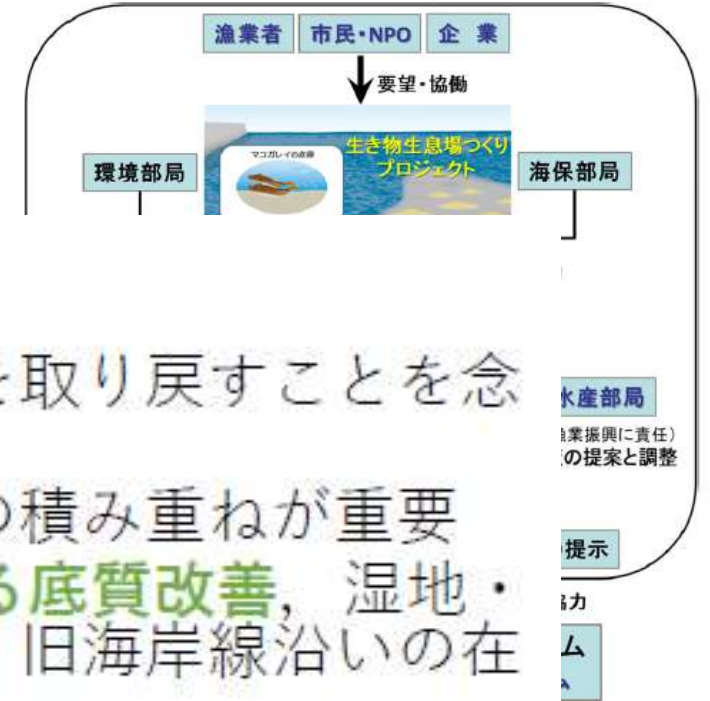
### ・ 基本的な考え方

- ・ **長期的な視点**では陸から海への緩やかな景観の連続性を取り戻すことを念頭に
- ・ 小規模であっても生き物の生息場を増やしていくことの積み重ねが重要
- ・ **10年スケール**で： 干潟・浅場造成, **覆砂・盛土による底質改善**, 湿地・藻場造成, 生物共生型護岸, 既存構造物の撤去や改善, 旧海岸線沿いの在来種保全

### ・ 進め方

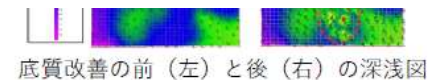
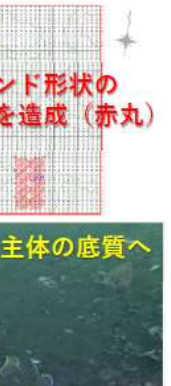
- ・ **合意形成**： 漁業者、遊漁船業者、水産部局、港湾部局、海上保安部局、環境部局、企業等を含む様々な関係者が存在することに留意するとともに、広く海の恵みを共有する市民・住民の理解を得る
- ・ **モニタリング**： プロジェクト実施後も継続的に行い、効果の把握、および**予期せぬ影響の監視と必要な見直し**。官民連携の体制で取り組み、結果を広く公にしなから、市民の関心を高めていく

東京湾再



水産部局  
産業振興に責任  
の提案と調整

提示



底質改善前の海底 底質改善後の海底  
(国土交通省関東地方整備局千葉港湾事務所による)

# 江戸前勉強会2022(12/9)のふいかえい

- 水産・漁業の視点: 漁業生産の変化と環境を見る視点

## 水産学会での議論

### 貧酸 まとめ

(Dea

- 人間も生態系の一部である
- “モニタリング” はとても重要

参考文献:

1) 国土技術政策総合研究所 沿岸海洋研究部, 第12回東京湾シンポジウム報告書, 平成24年3月

<https://www.vsk.nilim.go.jp/kakubu/engan/kaiyou/kenkyu/tokyo120116/tokyo12th.pdf>

2) 児玉真史, 笈茂穂, 石井光廣, 貧酸素水塊研究の潮流と持続的漁業, 月刊海洋, 53, 453-458, 2021年9月

3) 日本水産学会水産環境保全委員会, 懇話会ニュース, 日本水産学会誌, 87, 572-575, 2021年9月

[https://www.istage.ist.go.jp/article/suisan/87/5/87\\_WA2862/pdf/-char/ja](https://www.istage.ist.go.jp/article/suisan/87/5/87_WA2862/pdf/-char/ja)

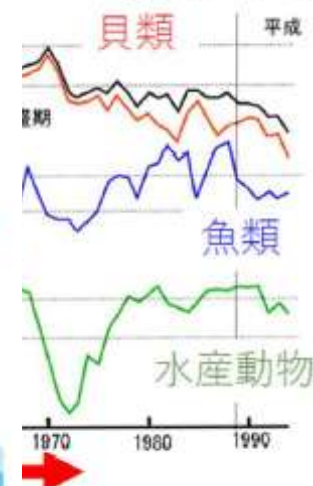
3) 羽生和弘, 伊勢湾の貧酸素水塊が湾奥部で大規模化した年代, 三重県水産研究所研究報告, 26, 53-66, 2020年3月

<https://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/2010938459>

## 東京湾の魚種別漁獲量 (再掲)



清水(1997) を改編



2期, 貝類  
動物の減少顕著  
水産動物 (I)

# 江戸前勉強会2022(12/9)のふいかえり

- ・ 生物モニタリングについて: ベントスとネクTONの生物種確認調査

## 東京湾生物情報

- ・ 多様でたくさんの参加者

イベント企画運営、安全対策、機材

- ・ 生物同定の協力

多層の分類能力者

ガチタクソノミスト: 特定生物群の

プロタクソノミスト: コンサル社員

パラタクソノミスト: フリーランス、社

エドタクソノミスト: インタープリ

ワレタクソノミスト: 市民、生徒児童

今回の協力

とりあえずできること  
イベント化

- ・ 身近な生物調査

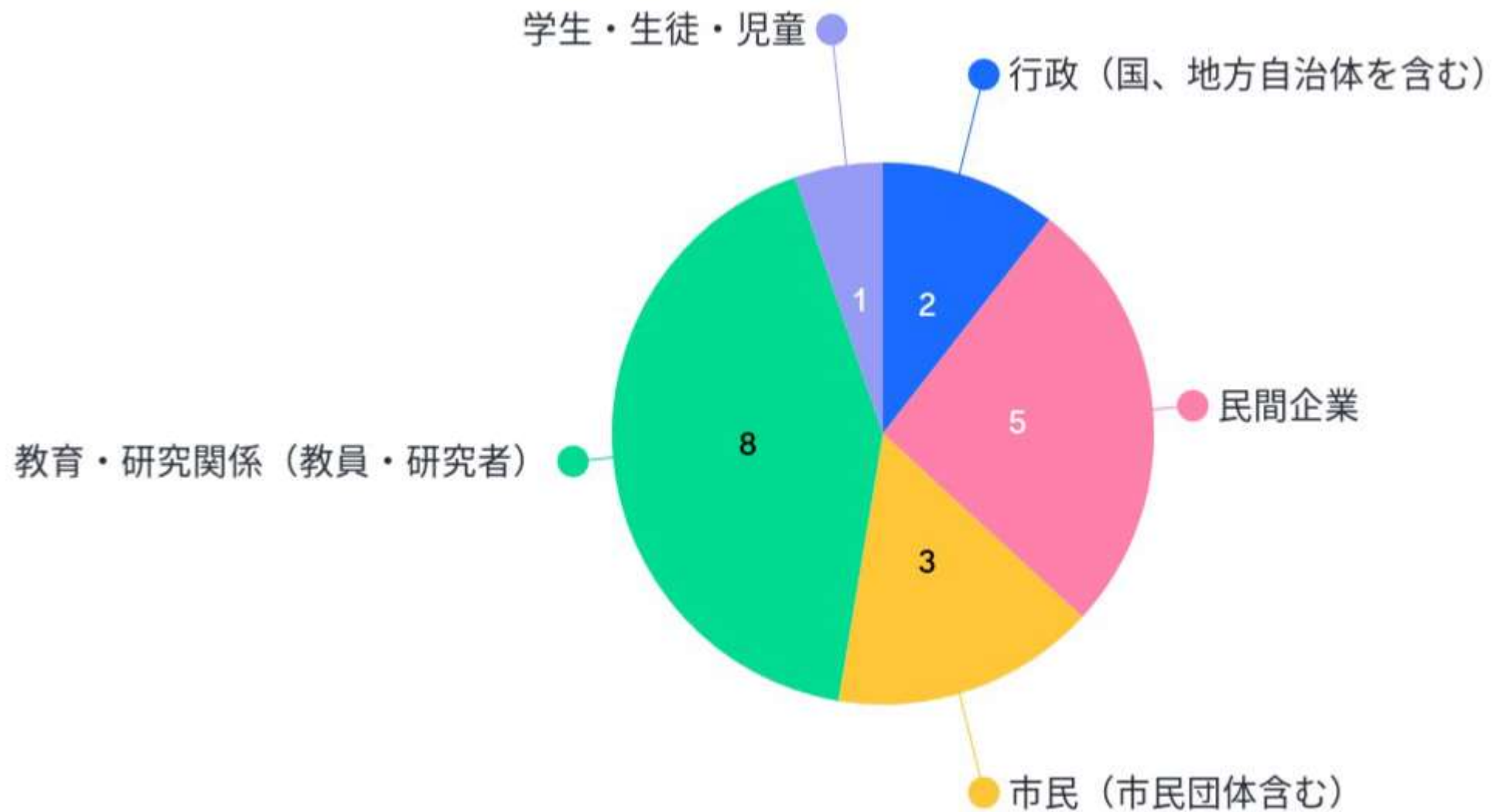
江戸っ子生物: マハゼ、アサリ、  
ウナギ

話題性意外性のある対象生物: 外来種、希少種  
チチュウカイミドリガニ、ムラサキイガイ  
汽水性カニ類、

来年度やってみよう!

# 意見交換

- 今回ご参加のみなさまのご所属



# 意見交換

- 東京湾にいてほしい生き物

さかな色々 江戸前と言われている

コメツキガニ (かわいいので)

鮭 (放流なんてしてみたら?)

海とともに暮らす人

タラバガニ

海藻

アサリ

ウナギ

イシガレイ

シオフキガイ

ハマグリ

アマモ

シヤ

コ

アナゴ

アオギス

マナマコ

マコガレイ

二枚貝

旨い魚

トリガイ

海草

砂質に生息する二枚貝

アサリなど外来生物

マアジ (美味しいので)

コノシロ

植物他多様な

マハゼ

マメコブシガニ (かわいいので)

ウモレベンケイガニ (見てみたいので)

# 意見交換

## ・ 生息場づくりについて

浅場、干潟

運河の活用

行政と市民  
の関わりかと思

国交相の生  
きて、生物を  
漁師が容易  
環境は違う  
検討するの

利用されず、将来的にも需要の見込めない老朽化した埋立地の護岸部分の緩傾斜化、流域河川上流の砂防ダム等から取り除いた川砂による養浜・干潟造成

- 対象：浅場、干潟、ビーチ、アマモ場、マウンド造成
- 場所：運河や（テトラのある）海岸線、老朽化した護岸の活用や元航路の埋戻し
- 工夫：漁業者による維持管理、企業の参画、浚渫土砂の利用
- そのために：データ収集、他の湾の事例との比較検討

湾の端のほう

。

での人為によ  
は次世代のた

「京湾の姿を描  
「探し」の視点  
いて、様々な事  
そして、改善  
ることから、

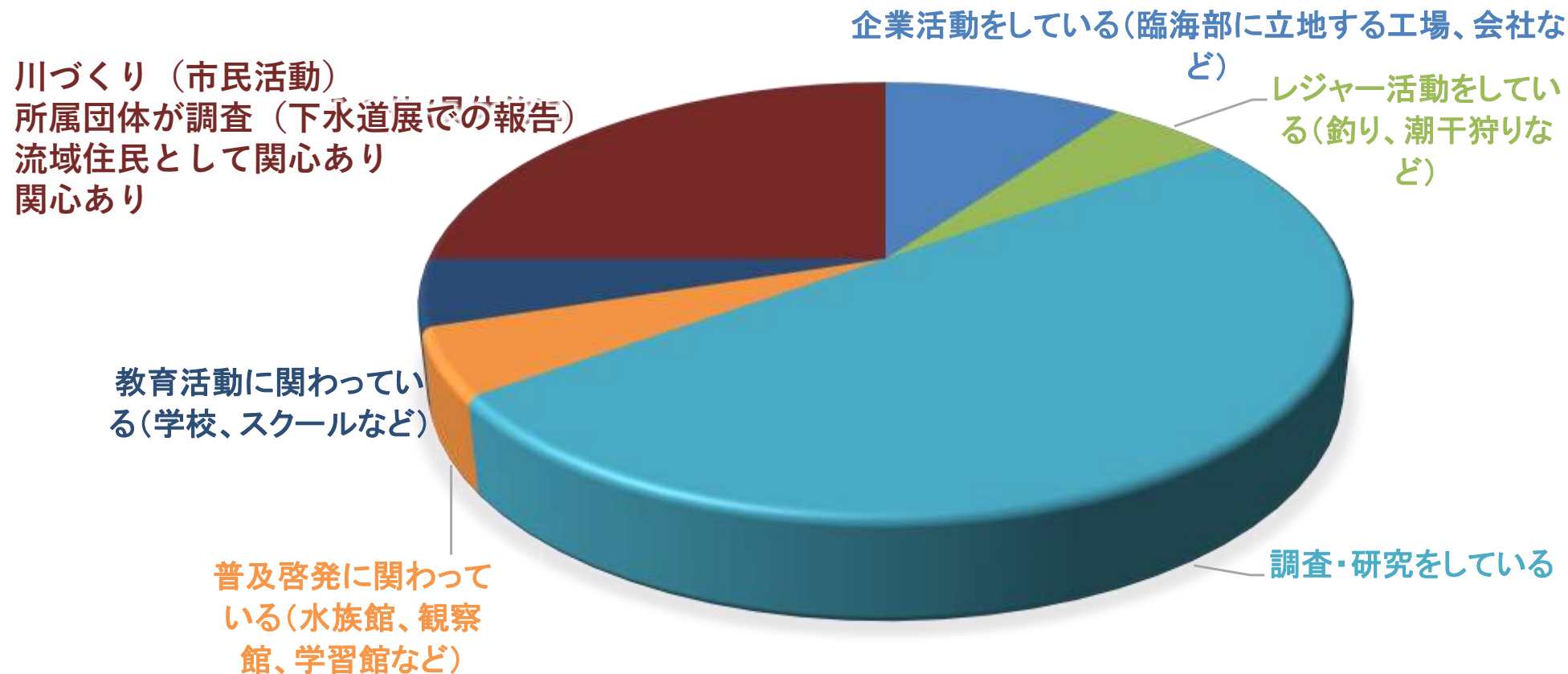
酸素水塊の  
E場ができた  
コアモをい

使わなさそうな運河の干潟化

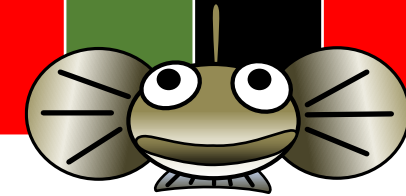
# 江戸前勉強会2022 第2回の参加予定者

## 参加者について（2022.12.22現在／事前アンケート分）

ご自身と東京湾の関連性について教えてください（複数回答可）



第4回



# 江戸前勉強会2022

- はじめに

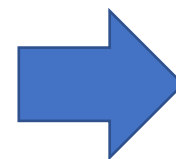
「第3回の振り返りと、参加の皆様について」

(古川恵太)

- **話題提供**

**東京湾へのアクセス (芝原達也さん 窓PT長)**

**コメンテーター (川辺みどりさん 東京海洋大)**



個別の資料を  
ご参照ください

- 意見交換
- おわりに

# グループに分かれてお話ししましょう

- 第3期行動計画に向けた「これからの連携」
- 「東京湾の日」をどのように盛り上げる？
  - だが、どこで、どのように
  - 地域の特性（ローカル性）
  - 日常性
  - 生物観察会
  - 東京湾の日
  - 大感謝祭

各班コーディネイター

1班：芝原さん

2班：川辺さん

3班：風呂田さん

4班：守さん

# 第3期行動計画に向けた「東京湾の日」をどの

連携

第1班

再生会議が、東京湾の日のウェブサイトで東京湾の保全のためのテーマを各回提示し（例えば、プラごみから東京湾を守ろうなど）、テーマに関連するポスターチラシ、教材などをダウンロードできるようにする

10月1日（トーキョーワンの）日にみんなで一斉に！

東京湾の日に合わせて東京湾の窓施設でゴミ拾いイベントを一斉に開催する

だれが？

どこで？

自分

市民が

小櫃川河口で

海浜公園で

一斉モニタリング調査をやる

観察会などで

みんなを誘ってハゼ釣りする

小学校、中学校を巻き込んで

文部科学省と教育委員会と連携して

渋谷。新宿。池袋など海が見えない所でも良いかも

みんなで何かやろうと思ったらやっぱりトイレや駐車場がある公園が便利

東京湾のイベントを企画とか

商店街を巻き込んで

東京湾岸環境保全自治体会議も連携して

東京湾の窓施設で

ビーチコーミング

プラごみが海に与える影響を学び、ゴミ拾いまでやる

東京湾の役に立ったという実感を持てる行事をする。例えばゴミ拾い、例えばアサリなどがすくすく育つ干潟づくり。

潮干狩りで親子で遊ぶ

学校や窓施設で

環境保全型の潮干狩り（ワイズユース）

# 第3期行動計画に向けた「これからの連携」 「東京湾の日」をどのように盛り上げる？

だれが？

どこで？

どのように？

いろいろな施設  
(博物館、水族館、環境学習館など)

NPOや行政  
が一般の人  
と

東京湾の漁  
業者さん、  
行政、他の  
人たち

おの  
おの  
の施  
設

海浜公園や  
干潟などで

東京湾のあちこ  
ちの現場で  
(zoomでもつな  
ぐ)

東京湾に関  
する展示を  
する

一斉に同じこと  
をする(ゴミ拾  
い；環境調査  
；)

懇  
談  
会

佐山さん：国交省「身  
近な水環境の全国一斉  
調査」と多摩川で市民  
と行政で組織「多摩川  
流域懇談会」事務局

ヒント1：地域の特性(ローカル性)や日常性に着目して  
ヒント2：生物観察会などの実施も有効？  
ヒント3：東京湾の日や大感謝際の新メニュー？

# 第3期行動計画に向けた「これからの連携」 「東京湾の日」をどのように盛り上げる？

だれが？

どこで？

どのように？

現場管理者  
の関心は高い

東京湾  
首脳会議

首都圏  
サミット

行政は周りの様子を見ながら・・・積極的ではない

担当者の異動の問題・縦割り→自治体・府省を超えた東京湾を所管する一つの組織の新設。

生物観察会  
の恒久的・恒常的開催

ボトムアップは進んでいる。行政のトップダウン意識が乏しい

行政は生き物の重要性は理解しているが・・・

ヒント1：地域の特性（ローカル性）や日常性に着目して  
ヒント2：生物観察会などの実施も有効？  
ヒント3：東京湾の日や大感謝際の新メニュー？

# 第3期行動計画に向けた「これからの連携」 「東京湾の日」をどのように盛り上げる？

だれが？

どこで？

どのように？

横断的  
な組織  
で

行政、漁業ばかりでなく、企業なども海辺の管理者

東京湾8  
ヶ所めぐり

こんなおいしいところ  
が

エンターテ  
インメント

イベント、  
けんがく会

行きたくなるイベントの後ヒトオシが必要

東京湾バッジをつける

東京湾  
グルメ  
大会

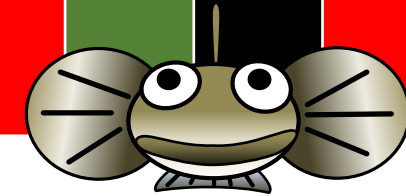
東京湾で大  
声コンテス  
トをする

フォトコンテストやinstagramのコンテストなどで東京湾に関心を持ってもらうことが最初？

ヒント1：「一カ所」に着目して  
ヒント2：生物観察会などの実施も有効？  
ヒント3：東京湾の日や大感謝際の新メニュー？

# ご参加の皆さんで記念写真





# 江戸前勉強会2022

6回シリーズ

おわりに／今後について

事前アンケート・参加予約

<https://jp.surveymonkey.com/r/JSGGH5P>



問い合わせ先 海辺つくり研究会・古川恵太

Email: [keita@meic.jp](mailto:keita@meic.jp) TEL:045-321-8601

Webサイト

<https://coastcard.jp/江戸前勉強会/>

2022年 2023年  
11月11日～1月20日  
19:00～20:30 隔週金曜日  
オンライン開催

参加無料

要予約

定員 Zoomでのご参加 先着100名  
Youtubeでのご視聴（定員なし）

対象 東京湾の再生に興味のある方  
行政関係者、研究者、市民、学生、  
漁業関係者、企業など、どなたでも

「東京湾の環境評価」

5  
1/6

○岡田知也 指標活用PT長（国総研）  
野村英明 東京大学大気海洋研究所